

【パターン Ⅰ】

農業生産活動

鳥獣被害

電気柵等対策実施

別の鳥獣の出現、また効果が不十分

放棄

生産意欲はあり対策も実施したが、個人個人での対応のため効果が少なかったり、サルの次にイノシシ、シカ、クマなどが現れたため、ついにはあきらめざるを得なくなった場合。

鳥獣が複数種類いるため、サルとシカ、イノシシ、クマなどに共通して効果がある対策が実施できない地区では、やりようがなくなって放棄する場合が見られる。



生坂村小立野

急傾斜地で野菜、果樹を栽培しているが、シカによる食害で、防護柵などしているが、一部に、荒廃化が進む。



上田市武石

イノシシ、シカの食害が重なり放棄された水田